

私の履歴書

前橋 汀子

②①

になるライナー・クスマウ
ルらの俊英たちが一堂に会し
た。結果はスピヴァコフが1
位で、2位はクレメメル。私
も入賞した。

イタリアのナポリで開かれ
たアルベルト・クルチ国際バ
イオリンコンクールでは、優
勝することができた。

このコンクールへの出場を
勧めてくださったのは、68年

バスを乗り継ぎ、レオボル
ド・ストコフスキーの高級マ
ンションに向かった。ピアノ
伴奏してくれるジュリアー
ド音楽院の男子学生
も一緒だったが、私
は巨匠のオーデシ
ョンを控えていつに
なく緊張していた。

子供の頃に見たデ
イズニー映画「ファ
ンタジア」でミック
ーマウスと握手をしていた、
あの偉大な指揮者の自宅を訪
ねることになるなんて。どき
どきしながらベルを鳴らす
と、お手伝いさんがドアを開
けてくれた。窓の向こうにセ
ントラルパークが見えた。

白髪のアム・フリード、後にベルリ
ンフィルのコンサートマスター
になるライナー・クスマウ
ルらの俊英たちが一堂に会し
た。結果はスピヴァコフが1
位で、2位はクレメメル。私
も入賞した。

イタリアのナポリで開かれ
たアルベルト・クルチ国際バ
イオリンコンクールでは、優
勝することができた。

このコンクールへの出場を
勧めてくださったのは、68年

音楽の殿堂で晴れ舞台

巨匠ストコフスキーと共演

カーネギー

この頃はニューヨークを拠
点にオーデシジョンを受け、
シゲティ先生だ。シゲティの
話は回を改めて詳しく書くこ
とにするが、先生から何度も
言われていたことがある。「27
歳までにものにならないけれ
ば、ソリストとしてやってい
くのは無理だな」。当時、私
は25歳になっていた。

69年のカナダ・モントリオ
ール国際音楽コンクールで
は、ワイマン先生の下で半年
だけ一緒に勉強したギドン・
クレメメルと再会。ウラディ
ミール・スピヴァコフ、ミリ
アム・フリード、後にベルリ
ンフィルのコンサートマスター

ある日、ストコフスキーの
代理人から連絡があった。だ
めだと思っていたオーデシ

決して軽やかとはいえない。
ところが指揮台に立った瞬
間、すさまじいオーラを放ち、
素晴らしい音をオーケストラ
から引き出していった。

ができた。

終演後のレセプションでス
トコフスキーは「ご機嫌だっ
た。日本食を食べたことがな
いというので「私が作ってご
ちそうします」と約束したの
だが、実現する前に巨匠は亡
くなってしまった。

(バイオリニスト)



ストコフスキー指揮のアメリカ交響楽団と共演した
(カーネギーホールで)

このとき私は黒のスパンコ
ールのドレスで演奏し
ている。アルベルト・
クルチ国際コンクール
の優勝賞金をつぎ込
み、私がナポリで買っ
ておいた生地で作って
くれた母の手製のドレ
スだ。

私は27歳になる前
に、何とかソリストと
してデビューすること

(バイオリニスト)